

PPF2007 プログラム

平成 19 年 3 月 26 日 (月)

受付開始 12:30

開 会 13:00

セッション 1 (13:05 ~ 14:05)

座長 森井孫俊 (富山大院医薬)、水口峰之 (富山大院医薬)

L1-1 13:05

KCC3a による Na^+ , K^+ -ATPase のアップレギュレーション

藤井拓人、糸見安生、高橋佑司、森井孫俊、竹口紀晃、酒井秀紀
(富山大院医薬)

L1-2 13:20

オレイン酸の自発的ベシクル形成に及ぼすリン脂質の影響

茶木弘一、Suparpun Chungcharoenwattana、上野雅晴 (富山大院医薬)

L1-3 13:35

モデル膜貫通ヘリックスの膜への分配の熱力学に対する、脂質頭部の電荷、膜流動性、側方圧の影響

矢野義明、小倉まい、松崎勝巳 (京都大院薬)

L1-4 13:50

脂質セラミド選別輸送分子CERTのSTARTドメインによるセラミド輸送メカニズムの物理化学的解析

杉木俊彦¹、長洲美智子¹、高橋栄夫²、熊谷圭悟³、西島正弘³、花田賢太郎³、
嶋田一夫^{2,4} (¹バイオ産業情報化コンソーシアム、²産総研、³感染研、⁴東大院薬)

休 憩 14:05 ~ 14:15

セッション 2 (14:15 ~ 15:30)

座長 眞野成康 (東北大院薬)、小西元美 (摂南大薬)

L1-5 14:15

神経細胞成分GM1 ガングリオシドを介した毒性型アミロイド 蛋白質の形成

岡田琢磨^{1,2}、若林真樹^{1,2}、池田恵介¹、松崎勝巳¹
(¹京都大院薬、²日本学術振興会特別研究員)

L1-6 14:30

シャペロンペプチドの検索

小嶋 絢、小西元美、秋澤俊史（摂南大薬）

L1-7 14:45

Measurement of Glutathione Synthesis *in vivo* in Sepsis Using Gas Chromatography-Isotope Ratio Mass Spectrometry

Yukiko Kimura¹, Moti Chowdhury¹, Mark J. Peters², Alan Goldman², Agostino Pierro¹, Simon Eaton¹

(¹Department of Paediatric Surgery, Institute of Child Health, University College London, U.K., ²Great Ormond Street Hospital for Children NHS Trust, Great Ormond Street, London, U.K.)

L1-8 15:00

胆汁酸アシルアデニレートの細胞内タンパク質との付加体生成

鴨田美緒（東北大院薬）

L1-9 15:15

Growth hormone とケノデオキシコール酸の非共有結合解析

阿部幸平（東北大院薬）

休 憩 15:30 ~ 15:45

セッション3（15:45～17:00）

座長 升島 努（広島大院医歯薬）、三田村邦子（近畿大薬）

L1-10 15:45

唾液中硫酸抱合型17-ケトステロイド定量法の開発と実試料への適用

柴山優人、東 達也、川崎 泉、島田和武（金沢大院薬）

L1-11 16:00

ヒト尿中抱合型テトラヒドロコルチコステロイドの LC/ESI-MSⁿ による高感度直接一斉分析法の開発

長谷川真紀、沖原梨香、三田村邦子、池川繁男（近畿大薬）

L1-12 16:15

LC/MS/MS を用いた尿中カテコールアミン類一斉定量法の確立

西垣俊太¹、豊田祐子¹、参川 優¹、長谷川朝美¹、津山尚宏¹、前田昌子²、
檜山栄三¹、升島 努¹（¹広島大院医歯薬、²(財)日本公衆衛生協会マススクリーニング精度管理センター）

L1-13 16:30

同位体タグ導入によるリン酸化タンパク質のnanoLC/ESI-MS/MS解析法
山崎琢磨（東北大院薬）

L1-14 16:45

金属触媒酸化反応および LC-MS によるアミロイドβ修飾の解析
井之上浩一^{1,2}、C. Garner³、B.L. Ackermann³、大江知行¹、中澤裕之⁴、
岡 尚男²、I.A. Blair¹（¹ペンシルバニア大医、²金城学院大薬、³イイライリリ
ー・アンド・カンパニー、⁴星薬大）

休 憩 17:00 ~ 17:15

特別講演（17:15 ~ 18:55）

座長 酒井秀紀（富山大院医薬）

S-1 17:15 ~ 18:00

激変期の薬学と将来
内海英雄（九州大院薬、日本薬学会次期会頭）

休 憩 18:00 ~ 18:05

S-2 18:05 ~ 18:55

微生物のロドプシン
加茂直樹（北海道大院先端生命科学、日本薬学会物理系薬学部会長）

夕 食 19:15 ~ 20:40

予告プレゼンテーション 20:40 ~ 21:00

座長 山口佳宏（熊本大環境安全セ）

L2-1 ~ L2-16

総合討論 21:00 ~ 23:00

平成 19 年 3 月 27 日 (火)

朝 食 7:30 ~ 8:20

セッション 4 (8:30 ~ 9:45)

座長 楠 文代 (東京薬大薬)、市川和洋 (九州大院薬)

L2-1 8:30

ポロンドープダイヤモンド電極のボルタンメトリーにおける特性と電気化学検出 HPLC への利用

小谷 明、袴田秀樹、楠 文代 (東京薬大薬)

L2-2 8:45

マイクロ抽出デバイスを用いた環境汚染物質の高感度分析法の開発

川口 研、伊藤里恵、本田英博、石居由美子、斉藤貢一、中澤裕之 (星薬大)

L2-3 9:00

アミロイドβペプチド-GM1 ガングリオシド相互作用系の安定同位体利用 NMR 解析

内海真穂^{1,2}、山口芳樹¹、山本直樹³、柳澤勝彦³、加藤晃一^{1,2}

(¹ 名市大院薬、² 分子研、³ 長寿医療センター研)

L2-4 9:15

0.4T Overhauser-enhanced MRI によるニトロキシルプローブの画像化

加藤正久、中山智博、市川和洋、長沼辰弥、内海英雄 (九州大院薬)

L2-5 9:30

ニトロキシルラジカルの 2,6 位置換基誘導体化による物理化学的性質の制御

木下祐一、山田健一、酒井 浄、内海英雄 (九州大院薬)

休 憩 9:45 ~ 9:55

セッション 5 (9:55 ~ 11:10)

座長 荒川秀俊 (昭和大薬)、岸川直哉 (長崎大院医歯薬)

L2-6 9:55

三成分同時生物化学発光検出酵素イムノアッセイによる未承認遺伝子組換えパパイアの検知の検討

田中陽子¹、伊藤克敏¹、前田昌子¹、五味恵子²、井上 敏³、穠山 浩⁴、

荒川秀俊¹ (¹ 昭和大薬、² キッコマン (株)、³ チッソ (株)、⁴ 国立衛研)

L2-7 10:10

MT1-MMP 特異的蛍光基質の開発

高岡 敏、家村龍司、小西元美、秋澤俊史（摂南大薬）

L2-8 10:25

ネオジムを蛍光中心とした *in vivo* 近赤外蛍光プローブの開発に関する基礎的検討

相田一樹、天満 敬、久下裕司、佐治英郎（京都大院薬）

L2-9 10:40

発蛍光誘導体化試薬 2-aminothiophenol を用いるキノン化合物のプレ及びポストカラム HPLC 定量法の開発

中島 一、岸川直哉、中島憲一郎、黒田直敬（長崎大院医歯薬）

L2-10 10:55

Suzuki coupling 反応を利用する蛍光標識法の開発と医薬品分析への応用

久保公子、岸川直哉、中島憲一郎、黒田直敬（長崎大院医歯薬）

休 憩 11:10 ~ 11:25

セッション 6 (11:25 ~ 12:55)

座長 河野敬一（北海道大院理）、大久保忠恭（大阪大院薬）

L2-11 11:25

Cross-linking反応を活用する生体内小分子結合タンパク質解析法

佐藤光市（東北大院薬）

L2-12 11:40

DNA 増幅反応を検出系とする高感度 LAMP-イムノアッセイの開発

高橋真紀子、大野賢一、荒川秀俊（昭和大薬）

L2-13 11:55

疎水相互作用による結合様式の予測

藤 秀義¹、星野忠次^{1,2}（¹千葉大院薬、² 科技機構さきがけ）

L2-14 12:10

ヒト由来 NMPRTase の構造解析と酵素反応機構の解明

高橋 亮¹、中村昇太¹、中沢 隆²、箕浦克彦³、吉田卓也¹、西 義則³、
小林祐次^{1,3}、大久保忠恭¹（¹大阪大院薬、² 奈良女子大、³ 大阪薬大）

L2-15 12:25

オートファジーにおける MAP-LC3 分子の役割

河野隆英¹、水口峰之¹、谷田以誠²、上野 隆²、木南英紀²、河野敬一³
(¹富山大院医薬、²順天堂大医、³北海道大院理)

L2-16 12:40

胃プロトンポンプの電荷移動と水輸送の分子動力学シミュレーション

山内理嗣、市川友彦、森井孫俊、高橋佑司、竹口紀晃、酒井秀紀
(富山大院医薬)

昼 食 12:55 ~ 13:50

表彰式、閉会 (13:50 ~ 14:10)